



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/5 (月)	+ 900	▲ 2,000	▲ 1,100	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 + 33,300 CP等買入 ▲ 100	国債買入 + 14,600	米: ISM非製造業総合景況指数 欧: ユーロ圏PPI (12月)
2/6 (火)	+ 1,000	▲ 3,000	▲ 2,000	国債発行 (物連10年)			
2/7 (水)	トン	+ 1,000	+ 1,000		共通担保 ▲ 8,500		日: 景気一致指数 (12月) 景気先行CI指数 (12月) 米: 貿易収支 (12月)
2/8 (木)	トン	▲ 9,000	▲ 9,000	国債発行 (30年)			日: 国際収支・経常収支 (12月) 貿易収支 (12月) 景気ウォッチャー調査 (1月)
2/9 (金)	トン	+ 1,000	+ 1,000				

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比+1兆2,600億円の540兆6,000億円から始まった。その後、国債買入オペ等の要因により、31日には543兆6,900億円まで増加したが、週末となる2月2日には税・保険揚げ等を主因に530兆2800億円まで減少し越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、前営業日比▲0.001%の▲0.011%から始まった。週を通してビッドサイドの資金調達意欲は底堅く、同金利は▲0.011%~▲0.008%で推移した。

ターム物は1W~1M物を中心に▲0.015%~0.005%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内で7日に景気一致指数・景気先行CI指数 (12月) の公表があり、海外では5日に米ISM非製造業総合景況指数の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.010
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GCは週初▲0.085%~▲0.075%から出合い始め、月末跨ぎとなる30日の取引では一時▲0.09%台まで低下した。

その後は▲0.085%~▲0.075%のレンジで推移し、国庫短期証券3mの入札が行われた週末は▲0.07%~▲0.06%で出合い始めたが後場には▲0.04%近辺まで上昇した。

SC取引は2年454~456回債、5年149~164回債、10年350~373回債、20年180~186回債、30年65~81回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約2兆800億円で、週間償還額 (約2兆3,400億円) を下回った。発行市場は、月末日の大量発行と化学や機械等の業種にて大型案件が実施され、活況なマーケットとなった。発行残高は前週末の27兆7,578億円から1日時点で27兆2,854億円と減少した。発行レートは概ね0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。26日にCP等買入オペが予定通り4,000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.003% (前回0.003%)、平均落札レート0.012% (前回0.018%) と平均落札レートが前回比で低下した。

来週の週間償還額は、約7,900億円となっている。発行レートは、金融政策修正の警戒感等から、発行期間の長い銘柄等については上昇余地を探る展開が見込まれる。8日に、CP等買入オペが4,000億円でオファーされる予定となっている。

<TDB>

2日の3M (1210回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1340% (前回債▲0.1437%)、平均落札利回り▲0.1440% (前回債▲0.1544%) となった。

来週は、8日に6Mの入札、9日に3Mの入札が予定されている。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.050